

組合員による新たな四つのチャレンジ

宮城自治研集会に向けて募集された「自治研チャレンジサポート」に全国から多数の応募が寄せられました。

甲乙つけがたいチャレンジが多かったのですが、自治研中央推進委員会および自治研事務局にて構成する選考委員会による第一次審査の結果、四つの企画が優秀企画賞候補に選ばれました。

宮城自治研集会における参加者からの投票によって、得票の多いものが優秀企画賞に選ばれます。宮城自治研集会の会場にて、面白そうな企画や応援してみたい企画にぜひあなたの一票を投じてみてください。

(※順不同)

絵本を活用した化学物質過敏症(CS)の予防・啓発活動
「香りに苦しむおともだちの存在への気づき…」

北海道本部／札幌市役所職員組合連合会

相内利幸 他3名

近年の香りブームで、各家庭の柔軟剤、洗剤、シャンプーやリンスの香りなどが

混ざり合う学校の教室のなかの強い香りがもとでアレルギー症状、頭痛やめまいなど健康状態に影響を受けている子どもたちがいます。

すべての子どもがよりよい学校生活を送ることができるように、社会全体が化学物質の危険性への理解を深める必要があります。微量の化学物質が私たちの健康に影響していること、香りに苦しむおともだちがいることを知ってもらい、家

庭での香り付き洗剤などの使用量を減らしてもらおう、香りのないものにしていただく、また香りのもととなるものを学校に持ちこまないことなどの香料の自粛につながる一助となるツールとして、絵本を作成してみたいと思います。

完成した絵本は学校図書館などに配架していただき、貸出図書として、また校内の読書タイム、読み聞かせの時間に活用してもらい、関係者への聞き取りなどにより効果を検証していきます。

自治体職員を
おもしろくする会
(チームKiduki)

福井県本部／鯖江市職員労働組合他

横井直人 他3名

近年、言われている「自治体間競争を勝ち抜く」ために、各自治体が特色を出して交流人口や定住人口を増やそうと躍

起になっていきます。しかしながら、同じ日本のなかでそのように人口の取り合いをして何の意味があるのでしょうか。また、これからの私たちの「まち」の理想やビジョンを一部の人たちで決めていくのでいいのでしょうか。

私たち若い自治体職員には、日頃業務で起こっている矛盾や本質のズレを自治体の枠を超えてぎくばらんに話し合い、お互いの街を知り、認め合うことが必要だと思っています。また、行政と市民との間にある「与える、与えられる」という関係から共に地域を創る、育てることが大事だと考えます。

「競争」ではない、「共創」を進めるため、福井県内の若手自治体職員を対象としたワークショップを開催し、自治体の枠を超えて話し合う場を提供します。

お互いの街を知り、受け入れることを促すこのワークショップを通して、ある種の「ゆるさ」みたいなものが備わり、より広いネットワークが構築できるのでは

ないかと期待しています。

労組が取り組む

「地域包括ケアシステム」

大阪市大正区バス停を使った ウォーキングマップの作成

大阪府本部／大阪市職員労働組合環境保健支部
平子一彦 他7名

大阪市職員労働組合環境保健支部では、「地域包括ケアシステム」の「予防」の観点から、二〇一四年から二〇一五年にかけて、大阪市大正区において、健康な高齢者への支援や自立への促し、健康づくりの取り組みの必要性など、地域でのイベントの開催やアンケート調査を実施しました。

それを踏まえ、労働組合として、医療機関や介護施設の施設数や、高齢者に絞った地域包括ケアシステムの準備段階の警鐘を唱えるだけでは不十分ではないか

と考えるようになりました。そして、生活に触れることや暮らしぶりやその人と接することによって得られる「地域」と「健康」の姿を映しだし、一〇年たってもええでといえる健康づくりの糧になる「身につく素材」として、具体的に、大正区内を一周できるバス停を使ったウォーキングマップを作成しようということになりました。

このマップを使ったウォーキングイベントによる地域活性化や、地域、民間、他の単組との交流を通じ、支部レベルでも「健康（予防）」の啓発に寄与したいと考えています。

個人型インバウンド特化

観光メディア製作事業

香川県本部／香川県職員労働組合
湯川致光

香川県には観光スポットを示したサイ

トが数多くありますが、どれも発信者側の目線で書かれており、それを補完する体験談・口コミなどは外国人がキャッチするのが難しい状況です。また、外国人発信の観光情報サイトを運営する会社も多く起業していますが、地域の細かい情報まではカバーしきれいていません。

そこで、香川県内の「うどんの注文の仕方」「フェリーチケットの買い方」「和三盆体験の方法」などを外国人目線かつ

外国語で発信して、香川県の個人型インバウンドへの対応を行いたいと考えています。

また、その情報発信を県在住の外国人に担ってもらうことで、地域を知ってもらうと共に、県内の国際交流にもつながるはずだ。

まずは、県在住外国人に記事を書くニーズがあるのか、香川県に来る個人観光客の情報獲得手段を調査し、マネタイズ

方法の検討、実施組織の検討を行う予定です。

自治体職員となると、政策研究や政策調査など「行政として」何をするのかといった視点でしか物事を考えなくなってしまうがちです。組織の枠を考えず「地域に必要なものとは何か」という視点で考え行動をしていきたいと思っています。



マスター
コメント

明日への視角 ● 左派ポピュリズムは可能か…杉田敦

特集 ● 参院選の総括と今後の展望

はじめに…中北浩爾 / 座談会 参院選の総括と今後の展望…辻本清美 + 山口二郎 + 柿崎明 + 中北浩爾

短期連載 ● 保育の質に関する国際的動向と我が国の課題(2)子どもの発達と保育の質に関する縦断調査…淀川裕美 / 連載 ● クローバル・リーダー…連帯の可能性を求めて「第2巻」(9)インダストリアル(その3) I-C-E-Mと国際石油化学産別の歴史…篠田徹 / 連載 ● 政治とジェンダー(6)参院選と都知事選にみるジェンダー…三浦まり / 書評 ● 田中拓道編「承認—社会哲学と社会政策の対話」…濱田江里子

生活経済政策

2016年9月号

2016年9月号購読料6000円

(社)生活経済政策研究所

東京都千代田区神田駿河台1-6 全通労働会館4F(TEL:03-3253-3772)

「自治研」を志す人に……

「自治研お悩み相談室」に続き、全国各地における自治研活動の新しい芽吹きを紹介するシリーズ「自治研チャレンジサポートのススメ」を連載でお届けしてきました。うまくいった事例もありました。始めてはみたものの具体的な行動には至らなかった事例もありました。結果はさまざまでしたが、これらの活動はそれぞれの〈現場〉ならではの生々しい息吹を感じさせるものでした。

またそれらと並行して、前ページの記事のように、宮城自治研集会に向けて自治研の自治研推進委員会が募集した「チャレンジサポート」に応募するべく、「絵本作り」や「マップ作り」など地域課題に即した多種多様な活動が企画され、今、集会参加者の投票を待っています。

* * *

この間、私たちが提起してきたことは、自治研をもっと〈現場〉に即したものにできないかということでした。〈現場〉とはどこでしょう？ それは、会議室のなかではないでしょう。自治研集会の会場の中かでさえありません。私たち組合員が働き、生活しているその場にこそ〈現場〉はあると言えます。

「自治研」という言葉には研究という言葉が入っているのです、一見、研究者・研究員がする活動のように見えてしまいます。結果、私たちは自治研を「他人事（ひとごと）」と思いがちでした。ですから私たちがまずしなければならないのは、自らの〈現場〉発の自治研を企画すること。そしてそれによって、自治研を「自

分事」にすることではないでしょうか。

* * *

「自治研」を志す人に……まず今、あなたのまち・地域のなかで起こっていることに目を向けましょう。講師や専門家の言葉でなく、まず身近な市民の声に耳を傾けましょう。そうすればおのずと進む道が見えてくるはずですよ。

「子ども食堂」「若者の政治参加」「都市農村連携」「LGBT」「商店街再生」「フードバンク」「待機児童」「再就職支援」「子どもの貧困」「農地保全」……これらは、ほかの誰でもない、あなた自身のまわりで今起こっていることばかり。そしていずれも自治研のタネになるものばかりです。ためらっている時間はありません。〈現場〉を持つあなたが動けば、きっとまちは、地域は変わるはずです。

（自治研マイスター）